

(1) 課題改善カリキュラム作成上の基本的な考え方

関中学校の国語科の課題として、①語彙力不足による読み取りの不十分さ、②読書量の不足や内容の偏り、③古文・漢文の系統的な学習の不十分さなどが挙げられた。そこで、小学校学習指導要領における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(1)に特化し、小学校と中学校が連携して指導にあたることとした。そして、その中で培った豊かな言語感覚を基盤に、読解力や表現力を高めていくことをねらいとしている。

(2) カリキュラム改善の視点

上記の課題を受け、国語部では次のような指導を行う。

① 語彙力不足による読み取りの不十分さ

漢字学習では、新出漢字の書き取りと併せて、熟語や類義語・対義語の意味調べなども行い、語彙を増やしていく。また教科書単元では、慣用句やことわざ、接続語、様子を表す言葉などに触れ、ゲーム感覚で言葉遊びを楽しんだり、声に出して読んだりすることで、語彙の獲得と広がりを目指していく。

② 読書量の不足や内容の偏り

中学校では、始業前のハートタイム(朝読書)に取り組み、日常的に読書に励む場を設ける。小学校では、年に2回の読書月間(旬間)や読み聞かせなどの活動を通して、本に親しみ、活字に慣れるよう指導する。また、図書委員会による本の紹介や集会など、新たな本との出会いの場も適宜設けていく。さらに、国語の学習の中で図書室と連携し、同じ作者の作品に触れたり本を使って調べ学習をしたりする活動を取り入れ、本を通じて新たな知識を得たり、読書の幅を広げたりできるよう指導する。

③ 古文・漢文の系統的な学習の不十分さ

中学校古文・漢文への学習の橋渡しとして、小学校では俳句や短歌などに触れる機会を設け、児童が言葉の語感や使い方に対する感覚について関心をもつことや、大体の意味や情景を思い浮かべて音読すること、実際に書いたり友達の作品を読んだりすることでその良さを味わうことなどをねらい、継続的に指導していく。また、小学校の段階で今と昔の言葉の違い、ものの見方や感じ方の違いについて触れ、中学校の古文・漢文学習に抵抗なく移行できるようにする。

